

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和三年七〜九月分）

選者 志やくなげ 高野閑林 先生

特選天

口喧嘩しつつ肩揉み夜の秋

熊本県

貝田ひでを

夕食後のひと時でしようか、老夫婦がお互いに刺激し合いながら生活しておられる様子のよく分かる句です。秋を感じさせるような夜の情景が印象的な佳句です。

特選地

切り株にどかりと坐り紅葉晴れ

千葉県

若林佐嗣

紅葉狩りで疲れたか、それとも山仕事で疲れたか。切り株に坐った様子が、中七の措辞からうかがえます。改めて紅葉を満喫されたことでしょう。

特選人

紅萩のゆたかに揺るる句碑広場

高山村

高野悠子

上五中七の措辞により句碑広場のゆったりとした情景が想像されます。秋風が優しく吹きぬける広場での素直な分かりやすい佳句です。

入選

中天に朗々として月今宵

千葉県

安田蝸牛

入選

八十路なお洗ひ髪して紅をさす

愛媛県

河本坦

入選

玉の汗それが快感畑仕事

群馬県

滝沢照香

入選

窯炊きの新米装う青唐津

群馬県

宮崎美智子

入選

誰が化身精霊蜻蛉肩に来て

群馬県

町田宏

入選

妹の電話長引く星まつり

岩手県

小山尚宏

入選

草を取る力手にあり足にあり

高山村

関谷庸子